

子育て支援センター きらきら

って、どんな所?!



2月は他にも、助産師さんによる骨盤教室、南磨き教室、冬の制作等のイベントがありました。イベント内容は、日程が学校行事と重ならず、0歳から3歳までが幅広く楽しめるよう計画されます。（毎月のイベントは、川上村子育てアプリ「カプリ」で確認できます。）

2月、きらきらへ何度か伺うと、流行病が落ち着いてきて利用者が増え、毎月数回あるイベントの日には、特に賑わいがありました。節分に合わせた、豆まきイベントでは、前年度、リアルな鬼の登場に夜泣きした子がいるとのことで、鬼に見立てた袋に向かってボールを投げる、という形式で行われました。鬼退治を終えたあとは、用意された豚汁と、鮭のおにぎりを自分で握ってお昼ごはんとなり、子どもたちはうれしそうにほお張っていました。

かわかみ保育園に併設する、子育て支援センターきらきら（以下、きらきら）は、0歳児から保育園にあがるまでの乳幼児と、その保護者の方を対象とした施設です。年間通して、火曜日から土曜日まで、常勤の保育士と数名のパートさんがサポートしています。



きらきらは、保育園入園までの乳幼児と保護者の遊び場だけではなく、その先も長く続く、子どもの成長、子育ての悩みを共に考え、心のよりどころとなる場です。現代の核家族化が進む中で、親同士の交流の場、家庭内の中継役、妊娠期から18歳までの成長を長い目で途切れなくサポートすることを目指しています。子育て中のお母さんだけでなく、お父さん、祖父母の方、さらには子育てが終わっても自由に利用できますので、気軽に遊びに来てほしいです。毎年、集まる子どもたちにより、雰囲気が変わるので、新年度はどんな毎日になるか、春からも楽しみです。

職員のコメント



井出まき枝さん

★親子で一緒に楽しもう!★



由井 幸さん

お絵かきやおままごとで、いっぱい遊ぼうね!



渡邊しおりさん

ボールやブロック電車もあるよ! みんなで仲良く遊ぼうね!



杉山百合さん

暖かくなるので、外でも遊ぼうね☆



由井小百合さん

親子で絵本、楽しみましょう。

2 春から年少さん! 由井澄空(そら)ちゃんのお母さんから

きらきらの先生方には、子育てのアドバイスをいただけるので、疲れたときや癒やされたいときに、何度も足を運び、たくさんお世話になりました。小さい頃から、きらきらに通うことで、子どもも親も顔見知りが増え、保育園に入園するのがとても心強くなりました。

利用者の声

1 お父さんと一緒に!
妻が仕事の日など、たまに利用しています。



人と地域のお手伝い
まだまだ頑張ります！



川上村の素顔

第49回

松村 満 さん
81歳

東京から移住して早13年。
以前は印刷業やボウリング
業界で、持ち前の人柄と元気の
良い性格で働いていました。
現在は村民一人一人に親切
に接する姿が、みんなの支えに
なり川上村の大切な一員となっ
ています。

―前職と趣味の両立―

私が初めて勤務したのは東京の印刷会社でした。2年ほど働いたときに会社が倒産し、そのタイミングで印刷会社を起業しました。ちょうどバブル期の恩恵もあり順調な経営がしばらく続きましたが、その10数年後に印刷業界にもデジタル化の導入などで業界全体が様変わりしていきました。そして私の会社でも徐々に経営が厳しくなり始め、設立33年目の年金をもちうタイミングで、会社を畳むことになりました。

また、印刷屋をやる前(20歳くらい)から趣味でボウリングをやっています。
ボウリング業界ではいろいろな団体の立ち上げから、県連の役員などにも携わりました。そしてボウリング関係の企画や印刷物を依頼されたりと、趣味を仕事に取り込んで頑張っていました。一番大変だったのはボウリングでの団体役員をやったことです。普通の大会とは全然違い、皇

―移住と仕事のきっかけ―

族の方が見学に来たりと、異様な緊張感がありました。よい意味で貴重な経験をさせてもらいました。川上村へ来てからも、たまたま双葉のボウリング場まで通い続け7歳までプレーしていましたが、現在は長距離運転も心配なので引退しました。ボウリングを通して学んだことは、集中力や判断力、そして対戦する人への態度だったり、挨拶の大切さなど、どちらも自分の土台となる大切なことを得られました。

―移住と仕事のきっかけ―

もともと田舎暮らしに憧れがあったのと、妻が花が好きで会社引退後は田舎暮らしをしたたいとお互い話していました。そこで私が印刷屋を畳んだタイミングが、移住の決め手となりました。

場所は中央線沿線が好きで、そこから探し始め、親切な川上村の不動産屋さんのご縁で高登台へ移住してきました。

私が東京の町田市に住んでいたときは、川上村の町田市自然

―1つ目の仕事―

休暇村の存在は知りませんでした。予約もすぐ埋まってしまうほどの人気だったみたいです。
そして移住して1年を過ぎた頃、同じ高登台に住んでいる方の紹介で、文化センターの管理を引き継いでやってくれないかという話をもちかけたのが始まりです。
その後もお弁当配達の仕事もいただき、移住前と同じように2つの仕事で川上村へ協力していく形になりました。

―1つ目の仕事―

まず教育委員会から頼まれたのが文化センターの管理業務です。主な仕事は文化センターを利用する人の照明や暖房の管理、そして最後に鍵の施錠などです。
期間は9月～5月、時間は17時～22時までの期間限定(夏場は全く利用がない)の仕事です。
毎月のスケジュールは教室の予約利用状況で変動します。

以前は利用者も多かったんですが、だんだんと人数も減少してきました。ここ数年はコロナで

利用する年齢層や時間帯などだいぶ変化してきました。
こんな立派な施設を無料で利用できるのと、生涯学習教室も安価で学べるので、もっと多くの人が学べれば村の人材も育つし、自分のスキルにもなるんじゃないかと思えます。私の意見としては文化センターの利用をもっと工夫できないかと感じています。

―2つ目の仕事―

川上村社会福祉協議会からの依頼で、デイサービスの調理場で作ったお弁当を年配の方や体の不自由な方のお宅へ配達する仕事です。週に3回(月、水、金)のうち、私は週2回を担当しています。時間は10時半位から10軒～12軒くらいの家へ配達しています。

私が配達するようになり驚いたことがあります。川上村では利用者一人一人に合わせた調理法をすることです。アレルギーに注意したり、お米は柔らかめしたり、きめ細かい気配りが本当に素晴らしいと関心しました。ちなみに1食500円ですが、それ以上の価値があると思います。

―最後に一言―

今年で高登台へ来て13年目の春ですが、冬が寒い以外は本当に快適に暮らしています。夏もクーラーなどは使いませんが、冬の薪代がかかるのは仕方ないですね。このお仕事をやり続けてきて、村の人との接し方も嫌いじゃないし、今の距離感もちょうど自分にも合っていると思います。なのでやれることは微力ながら続けていければと思います。
今後川上村と、ここに暮らす人との繋がりを大切にして、まだまだ頑張りたいです！



文化センターでの照明管理風景



お弁当の配達風景



お弁当紹介(一例)

真冬の 大運動会

令和5年2月1日～27日
会場：各公民館にて

令和5年2月1日から27日の間、「体操サロン」参加者による公民館対抗「真冬の大会運動会」が開催されました。コロナ感染対策のため、全員が一堂に会することを避け、競技は各公民館で分かれて行われました。

「体操サロン」は、川上村地域包括支援センターが主催し、令和3年5月から始まり、介護予防（B型）住民指導士講習上級コース修了者を含めた10名が「おたっしやサポーター」として指導に当たっています。

体操サロンは、住民の皆さんがいつまでも元気で、自分のことは自分でできる身体を維持することを目的に、毎月1回、各公民館で開催されています。65歳以上はどなたでも参加でき、筋トレ、体操、ストレッチ、脳トレ、レクリエーションなどを楽しみながら、個々の体力と体調に合わせて運動をしています。

大運動会の紹介

<p>豆移動リレー タッパーに入った豆を箸で別のタッパーへ移す。</p> 	<p>足し算ぬり絵 合計が7になるところを塗り、絵を完成させる。</p> 	<p>間違い探し 2つの絵を見て間違いを探す。</p> 	<p>紐つなぎ 制限時間内に紐を結び長さを競う。</p> 	<p>輪投げ 1人5本の輪を投げ、入った点数を競う。</p> 	<p>新聞紙つなぎ 一枚の新聞紙を手で裂き、長つなぎ合計の長さを競う。</p> 
					
					

分館対抗 真冬の大会 結果発表

- 1位 憩いの湯
- 2位 居倉
- 3位 大深山
- 3位 原
- 5位 御所平
- 6位 川端下
- 7位 梓山
- 8位 秋山

真冬の大会運動会は、体操サロン一年の取り組みの集大成です。各地区の団結力を強め、交流を深め、協調性を養います。脳トレ、身体活動を取り入れた内容で、以上の6種目が行われました。緊張し合いながらも楽しんで参加されました。

参加者の声

- 毎月の「体操サロン」が楽しみ。今日の運動会も久しぶりに真剣になった。
 - 家ではできない運動ができてうれしかった。
 - 体操だけでなく、友だちに会えるのが楽しみ。
 - 家の中だけにいるより、仲間と運動ができて楽しい。
 - 元気になるし、仲間から元気をもらえるよ。
 - 今日には特に緊張した。でも楽しかった。
 - 家では、畑作業はしないけれど、秋には豆の皮むきのお手伝いをする。今日は、手をいっぱい使ってくれたよ。
- 

おたっしやサポーターの声

- 自分自身の健康維持や地域の皆さんとの交流を通じて、住民同士の輪が広がったように感じます。
 - 助け合いや地域に貢献する精神が育まれているように思います。
 - 体操サロンでは、「川上の歌体操」を練習中です。実は、他町村でも「川上当地体操」がブームになっています。
 - 体操サロンにぜひ参加いただき、次の運動会では、全員で「川上の歌体操」をしましょう。
- 

保健福祉課 有坂保健師

● 近所、お友達を誘って参加してくれる方が多いです。出かけるのが億劫なときも、誘い合うと外へ一歩が出やすいです。「人とのつながり」が健康へつながると思います。



アンサンブル・デル・クオーレ

1997年に発足した女声アンサンブル「アンサンブル・デル・クオーレ」は、昨年2022年12月4日、3作目となる合唱オペラ「いろえんぴつ」の初演を川上村文化センターにて公演しました。2020年4月、2021年1月と、予定していた公演も新型コロナウイルス感染拡大により延期を余儀なくされ、委嘱、制作から6年をかけての演奏会となりました。

1年8カ月の活動休止を経て、当初は最も感染のリスクが高いといわれていた「合唱」を続けるためにはどのような対策を取ればよいのかと試行錯誤を重ねていきました。まずはマスクを着用して隔週での練習を再開し、村外からお越しになる演出家やピアノリストには、毎回の抗体検査をお願いし

ました。公演3日前に出演者全員のPCR検査の陰性を確認して、公演前日にやっとマスクを外しての稽古ができました。できる限りの感染対策を徹底させて公演を迎え、来場されたお客様に感染者を出すことなく終えられたことに、団員一同安堵しております。

コロナ禍での活動休止で私たちは、歌うことの楽しさ、仲間と声を合わせることの素晴らしさを実感してきました。そしてやっと実現できたこの演奏会は、私たちに舞台表現の素晴らしさを再確認させてくれました。演者と観客の気持ちに反応し合って作り出していく劇場の空気が、思いもかけない表現を引き出し、さらに新しい空気を作り出していきます。もっとうるうるな場所です。さまざまな人たち

と、こういつたやり取りをやってみたい！と東京公演を計画しました。12月の演奏会後のアンケート用紙に書かれた皆様の言葉が、私たちの気持ちを後押ししてくれました。山村の小さな合唱団でもこのような活動が可能であり、私たちの故郷にはそれを支え、見守り、応援してくれる環境

があります。川上苑、川上の女性たちの演じる舞台を東京でも公演することで、川上村をPRし、さらには地方力をPRすることができればと考えています。東京公演は5月。農作業も始まり忙しい時期ではありますが、村民の皆様のご理解、ご支援をよろしく願います。



女たちの合唱オペラ「いろえんぴつ」東京公演
2023年5月2日(火) 19時開演
あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)にて

動物バトンリレー

吉澤知里さん (御所平)

■ ラッキー 5歳 黒柴犬 (オス)

我が家では30年前から黒柴犬を飼っています。ラッキーは5年前、3代目として家族の一員になりました。人なつこくて優しく、凛々しい顔立ちが自慢です。



川の集い



2月24日、この1年間の学習活動などで、支えてくれた地域の方や保護者の皆様に感謝を伝えることをねらいとした成果発表会が開催されました。

1年生は読み聞かせの方たちへ感謝の言葉を伝え、2年生はお豆腐作りの成果発表を、3年生はレタスの種まきから収穫までの畑作活動の成果発表を舞台仕立てで発表。会場はパワフルな演技に盛り上がりつつありました。4年生は書き初めの成果発表で作品を実際に掲示したり、5年生は稲作や野菜栽培の過程を小道具まで揃えて舞台発表を、6年生は各地区道祖神や舞などの活動報告を責任感と達成感も交えた凛々しい姿で発表しました。スケートクラブメンバーからも、活動や大会の報告と



コーチへの感謝の言葉を述べました。

「川の集い」は、発表会後、謝礼を伝えた地域の方たちと一緒に昼食会も行うたりとさまざまな形で毎年恒例のイベントだったようです。しかし、コロナの影響で今年は3年ぶりの開催となりました。コロナ禍も落ち着き出したので、復活させようと動いたものの、この2年で職員が総入れ替えされていて経験の無い先生たちは、過去の資料を元に試行錯誤して開催されました。

第一小 教頭 山下博先生

今年度は学校行事も徐々に復活したものの、行事や地域の方との交流などは、まだ以前と同様とまでは戻っていません。来年度はさらに学校行事や地域行事を充実させて、以前のような活気を取り戻したいですね。



教育委員会 だより



川上村教育委員会は、令和4年度に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、3校にタブレット端末計36台を追加整備しました。

今回整備したタブレット端末は、3校で授業に活用されています。タブレット端末を利用したグループ学習アニメーションを活用した授業構成など、従来の学習環境からは大きく変わってきています。

文部科学省では、タブレット端末等を活用し、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すGIGAスクール構想を打ち出しており、川上村でも環境整備を進めているところです。

今後の授業展開については、環境の変化に戸惑う児童生徒、教職員や保護者の方もおられると思いますが、GIGAスクール構想の趣旨をご理解いただき、川上村の教育がより良い方向へ進展するよう、ご協力をお願いいたします。

公民館の動き

2月9日 館報編集委員会

戸籍の窓口

二月一日～二月二十八日受付

お誕生おめでとうございます

岩水 丈 じょう 一平 真里奈

二結婚おめでとうございます
末永くお幸せに

林 祥平 秋山 水沼 愛華 山梨県

お悔やみ申し上げます

菊原政三郎 原 八六歳
由井 政 御所平八九歳
由井 歌子 御所平七六歳
佐原よしへ 川端下一〇三歳
井出 平 原 九三歳
井出かつえ 川端下九八歳
由井ちか子 御所平九一歳

※この欄は川上村に住民登録されている方を掲載しています。

「お知らせ」
館報編集委員を募集しています。詳しくは文化センターまでお問合せください。

一喜一憂

この春で、25年間勤めてきた館報編集委員を退任することになりました。74年続く公民館報の歴史のごく一部ではありますが、大きな変動の中の活動でした。

2001年、紙面サイズの変更とデジタル化を図り、レイアウトをパソコンで行うことに決めました。専門知識のある先輩に指導していただきながら、二人三脚の編集作業。重責を担うプレッシャーと、発行された時の達成感は今も変わりません。師と仰いだ先輩はもういませんが、現担当の後輩も含め、一時代を築いたと自負しています。

取材では多くの現場に赴きました。おかげでさまざまな行事や出来事を体験し、新たな発見や人との繋がりができました。時代の流れに合わせて変化する村内行事や公民館事業、時折折れるピンクイベントなど、村の歴史をレポートできたのは編集委員の醍醐味だと思っています。

この25年間、苦勞することもありましたが、貴重な体験をさせていただきました。お世話になった皆さん、ありがとうございました。

編集長 K

【村勢】

総面積	209.61km ²	総人口	3,549人
世帯数	1,214戸	男	1,835人
		女	1,714人

(2月28日現在)